

---

# 愛 ぶち

永遠愛

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛 ぶち

### 【Zコード】

Z3486C

### 【作者名】

永遠愛

### 【あらすじ】

絶対、一重ズキな彼には言えない。あたしが一重だつてこと。

あたしは、アイチ命女だ。

【恋 ふたり】

あたしの彼は、目がパツチリした女の子が好き。

「やっぱなーーのト可憐によなーー！」

ほひ。

今だつて街で見かけた某アイドルのポスターを見て「ひひひつてる。

もひひん、この子は目がパツチリしている。

「まあ、一番可愛いのは俺の菜々だけねー

そつまつて、彼、悠斗は笑顔で肩に手を回してきた。

「…ありがとう」

複雑だ。

果てしなく複雑だ。

あたしだって、彼の好きなパツチリ一重だ。

だけど、それは魔法。

メイクとこう召の魔法。

「あ…つあたし…一ひとつトイレ言つてぐる…」

「え…菜々？」

あたしは急いでトイレに駆け込んだ。

…まよい、もう1時間経つ。

あたしは、急いでメイク道具の中からアイプチを取り出し、とれかけたアイメイクを直す。

今、あたしが使ってるこのアイプチ。

これがわたしにはベストで、よくまぶたがくつつくんだけど…

約5時間しかもたないんだ。

そう…あたしは彼の好みの顔になりたくて、彼に好かれたくて…

幼い頃からの、この線のような一重の目を、アイプチして二重にしている。

悠斗には、一度だってアイプチ使用前の顔は見せた事がない。

プールに行つたら絶対にゴーグルを外さないし、

一緒に寝た時なんか

絶対に悠斗よりも早く起きてメイクする。

とにかく絶対にバレたくない。

「お待たせ！」

バツチリ一重になつた事を確認すると、あたしは平然を装い、悠斗の元へ向かう。

「おー、何だよ？急に。う こか？」

「やつ……やだ！そんなわけないでしょー。」

はあ……。

急いでトイレに駆け込んで、しかも戸口へ向かってから必ず「ひだと思われるしつこい」とか「かわいがり」などと思われるしつこい。

「じゃあ映画でも見つかー！」

「あ……うんー。」

でもこの線のよつな皿を見られたよつマジだもん……！」

「あー……映画おもしろかったねー！」

あたし達が見た映画は、テレビCMがガンガン流れてる話題作のラブストーリー。

思つたほどではなかつたけど、それなりに感動するものだった。

「わうかあ？てかあの女優何？よくあんなんでヒロイン役もりえんな

「え……そう？可愛しかつたじゅん

「いやー、俺あの子好きじゃねえや」

ズキ…！

…ヒロイン役の子…

素朴な感じの一重だつた…

「菜々…どしたん? 下向いて。具合悪い?」

「え……「うん! 大丈夫っ…」

やつぱり…

一重は嫌なんだね…

「そつかー? なあ、今日何もないよな? 「うち泊まつてけよ」

「…「ん」

改めて思った。  
絶対、言えない。

「先風呂使えよ。タオル置いとくから」

「……」

せっかく悠斗ん家に泊まりに来たってこいつのこと

テンション下がつまくつだよ……

あたしは服を脱いで、使い慣れたこの家のシャワーを手にとった。

シャ  
…

ああ、魔法がとけてく。

線の目の、醜いあたしになる……。

そう思っていた瞬間

「菜一々」

！？

「悠斗！？何して…」

悠斗がお風呂に入ってきた。

「えー？ だつて風呂一緒に入った事ないじゃん？ 今日いやは

「まよひ…一いつて…」

「まよひ…」

「これは最高にまよひ…！」

今まで何度も悠斗と一緒に入るひ、と誘われても頑なに断つて  
きた。

…何でつて？

もちろんバレるから！

こんな明るいとこで  
思いつきつすっぴんで…

まよひ…！

「わ……ひめ……」

「早く出ででー。」

あたしはグイグイと悠斗を外に押し出した。

「菜……」

「悠斗のばかあー。」

悠斗が外に出たことを確認すると、急いでお風呂のドアを閉めた。

「めん……

「めんね、悠斗……

お風呂から上がり、お風呂の隣にある洗面所でバッヂリメイクをす  
ると

怒つてこむであらわ

悠斗の部屋へ向かう。

「悠斗……？」

あたしはおひくつ悠斗の部屋のドアを開けた。

「…………」

案の定、怒っていた。  
返事は返つてこない。

部屋は真っ暗で  
悠斗の姿は見えない。

「…電気つけよー?」

パチッ

部屋の電気を付けると、ベッドで仰向けになつてこむ悠斗の姿があつた。

「悠斗…?」めんね、怒つてゐる…?」

そつと、悠斗のそばに駆け寄ると

「…んつー」

腕をつかまれ、無理矢理キスされた。

「んん…つー」

苦しい…

「んな荒いキス初めて…！」

息出来な「よお…」

「ニヤ…」

「ン…」

とうとう酸素が足りなくなつたあたしは、悠斗を空飛ばしてしまつた。

「あ…悠斗…」」ぬ…」

「……………ん？」

「…え？」

床に倒れこんだ悠斗の口から、小さく何か聞こえる。

「…んどの？」

「…んと…」

見た事のない、悠斗の顔だ。  
捨てられた仔犬みたいな…

「…う…今日俺樂しみにしてたの」「さー何かずっと菜々ため息ついてるし…」

「あ……」

「風呂も絶対拒絶されるし……」

「…………」

「キスも突き飛ばされるし?」

「ちが……」

「結局好きなの俺だけなの!?」

「…………」

ちがうよ

ちがうの……

「何も言わねえんだな……」

部屋から出でて悠斗。

「のままいいの?」

誤解を

解かなくていいの……?」

……じつせ嫌われるなうー。

「悠斗ー待つてー！」

急いで追掛け、お風呂に入りつつある悠斗を呼び止めた。

「……あ？」

「……」

あたしは持つてきた荷物からマイクおとしを取り出し、魔法を……といった。

「……悠斗ー見てーこれが、本当のあたしー！」

見て 悠斗

これがあたしだよ

悠斗が好きなー重とは正反対なーこれが本当のあたし。

「…………」

振り返った悠斗は瞳然としている。

「これがあたしなの……ずっと……悠斗が一重の女の子好きだから言えなかつた……。本当は……」こんな線みたいな目だつてこと……

「……」

あー……

泣き声……

「お風呂拒否つたのも一重だってバレたくないからだし、キスは息が苦しかつただけだし、今日づわの空だつたのは……」

「……」

ダメだ……！

泣く……！

「悠斗がつ……映画のヒロイン役の一重の子……可憐くないって言つたから……つー」

堪えきれなくなつたあたしの想いは、涙と一緒に外に出た。

立ち去くしでいる悠斗。

本当に……終わりだ……

あたしが別れを覚悟したその瞬間、

「フロ...」

「...えー...ひょっと、悠斗ー?」

悠斗に、抱き締められた。

「...菜々...可愛こすが...」

「えー?」

ため息混じりの、悠斗からの思ひがけない言葉。

「...俺ね、別に一重が好きなんじゃないよ

「くーへーひー...ひーだあーだつて...悠斗が可愛こつて言ひにみんな  
一重だよー?」

「たまたまだらー一重の子が好きなんじゃなくて、俺は笑顔が可愛い  
い子が好きなの」

笑顔が...可愛い子...?

「でつ...でもでも...映画のヒロインの子はー?」

「ああ、あの子は別に……顔がどり、とかじゃなくて、セリフ棒読み  
だったからや」

「……なんだあ～」

気が抜けたのか、あたしはへなへな、と床に座り込んだ。

「……それに、菜々十分可愛いやつ、」

「……そこまでゆわなくていいよ」

あたしがプレイ、とわっぽを向くと、

チコ…

悠斗は、優しいキスをした。

「本当にだよ？ 実は俺、菜々に一回惚れだつたんだ」

「え……でも」一重の菜々に、でしょ？」

「ううん？ 菜々の笑顔に」

あたしの……笑顔？

「菜々の、思いつきりくしゃつて笑う顔が好きになつたの……信じ  
てくれる？」

…あるいは

「…うん」

そんな優しい顔されたら信じちゃひよ…

「て こと」

「？」

「バサ！」

あたしはいきなり服を全部脱がされた。

「なつ… 何す… つ」

「もう何の問題もないよな? 風・匂 へるーぜ」

「え…あの… うふ…」

悠斗はこれなりいたからこそのような顔であたしをお風呂に入れた。

「悠斗… つ」

「」ただけあああけへりたんだ。 いだろ?.

…あひー

するい  
するい  
するい

「...いーよつ」

いじわる悠斗。

⋮ 大好き。

【終】

(後書き)

ハイ、文章ひどい～（ ）もう文才なさすぎ～すね ちなみに内容の方なんですが、これね、あたしの悩みでもあるんですね～（ - ）あたしも一重で 自分の気持ちを色々にかぶらせてみました笑！感想、お待ちしています

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3486c/>

---

愛 ぷち

2010年10月25日09時25分発行